

中日文化賞受賞スピーチ

歴史と伝統のある中日文化賞を受賞させていただき、光栄に思います。私は岐阜市の出身で、高校まで岐阜で教育を受け、中部地方には沢山のゆかりがあります。また、我が家では中日新聞を購読していましたので、子供のころから読んでいた新聞から賞をいただいたことを、とりわけ嬉しく思います。

この中日ビルにも、子供のころ、よく両親に連れてきてもらいました。中日ビルの後は、三筋ほど西に行った丸栄デパートに行くのがお決まりでしたので、まだ保育園児だったときに、親を置いて、一人でさつさと丸栄デパートに行ってしまったことがあります。ところが、いつまで待っても親が来ないので、中日ビルにもどると、守衛の人が外に待っていて「大栗君だろう」と呼びかけられて保護されました。というわけで、中日ビルの守衛さんには恩があります。

また、これは今回の授賞記事に書いていただいたエピソードですが、小学生の時に、中日ビルの屋上にあつた回転展望レストランから地球の大きさを測つたことがあります。地平線のあたりに父の故郷が見えるので、聞いてみると、二十キロぐらい先だと言います。学校でならついていた図形の性質を使うと、地平線までの距離の自乗は、地球の半径とビルの高さの積であることを思いつきました。ウルトラマンの身長が四十メートルということは知っていたので、中日ビルはそれより少し高い五十メートルぐらいでしょう。そこで、地平線までの距離が二十キロということを使えば、地球の半径は、二十キロの自乗・割る五十メートルで、八千キロだと計算できます。実際は六千四百キロなのでちよつと長めですが、それほど悪くない。観察と思考の力によって、「窓から見える景色だけで、地球の大きさがわかる」ことは素晴らしいと、強い印象を受けました。

そのようなところから始まって、いまでは、地球の大きさではなく、宇宙の形を解明する研究をしています。この分野では、今後十年の間に、実験や観測によって理論の検証が大きく進むことが期待されています。たとえば、今回受賞をされる梶田さんが中心となって建設が進んでいる重力波望遠鏡 KAGRA が完成すれば、宇宙観測に新しい窓が開けるとともに、アインシュタインの重力理論を、強い重力場のもとで検証することができるようになるでしょう。また、昨年より日本学術振興会の「加速宇宙」という新学術領域に参加しております、宇宙の観測や実験をしている研究者たちと協力して、理論の検証を目指しています。

さて、今回受賞させていただいた中日文化賞は、日本国憲法の施行を記念して制定されたものだとお聞きしています。私たち基礎科学の研究者が、自らの好奇心の赴くままに研究をすることができるようにも、日本が七十年以上にわたって平和を保ってきたおかげです。戦後の荒廃から立ち上がり、今日の繁栄する社会を築き上げてくれた私たちの親や先輩の世代に感謝するとともに、この文明をさらによいものにして未来の世代に手渡したいという思いを強くしています。

これまで育ててくれて、また私の好きなように勉強をさせてくれ、夢をかなえさせてくれた両親に、感謝の気持ちを伝えたいと思います。また、今年はずいぶん私と妻の銀婚式に当たる年であり、これまで支えてきてくれた妻にも感謝します。本日は、誠にありがとうございます。ごさいました。